論　説

井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の増設についての考察

――底本の英語に新設した訳語――

金　　敬雄

一、はじめに

ロブシャイドの『英華字典』(1866－1869年）は近代漢語の研究で非常に注目されている書物の一つである。日本ではこれを底本にして明治16～18年井上哲次郎によって『訂増英華字典』が出版された。そして、明治32年、明治39年二回にわたって日本で版が重ねられ、また1903年に上海でも刊行されている[(1)]。この『訂増英華字典』の訂増についての先行研究が若干あるものの、訂増の全容がまだ明らかにされていない。

筆者の調べては、井上哲次郎の『訂増英華字典』で、訳語の訂増に関わるものが延べ9707項[(2)]ある。それらを大まかに下記のように分類することができる。

（一）英語の訂増に関わらない訳語の訂増

(1)　訳語の削減(66項)：訳語の一部または全部が本来対応していた英語のところから外されたもの。これに関してはすでに拙稿（1999ａ）で考察してみた。

(2)　訳語の修訂(646項)：底本の訳語についての改訂。これらをさらに「符号に関わる訳語の修訂」、「字順の変更による訳語の修訂」、「同義語・類義語の入れ替えによる訳語の修訂」、「訳語の修訂ミス」、「訳語の訂正」、「訳語の修整」に分類できる。これらについては、すでに拙稿（1999ｂ、2000

ａ、2000ｂ、2000ｃ、2001ａ、2001ｂ）で考察してみた。

(3)　訳語の新設(35項)：底本では訳語がなかった見出し語または英語の例文、解釈文などに訂増版で初めて訳語を付けたもの。

(4)　訳語の増補(6206項)：底本の訳語の上に新たな訳語を補充したもの。

（二）英語の訂増に伴う訳語の訂増

(1)　英語の削除(83項)：底本にあった見出し語または英語の例文、解釈文などが削除され、それに伴って対応していた訳語も一緒に削除されたもの。

(2)　英語の修訂(11項)：底本にあった見出し語または英語の例文、解釈文などが修訂され、それに伴って訳語が修訂されたもの。

(3)　英語の増設(2660項)：底本になかった見出し語または英語の例文、解釈文などを訂増版で新たに増補し、それに伴って対応する訳語も新たに付けられたもの。

本稿では井上哲次郎の『訂増英華字典』における訳語増補の全容を解明する一環として、「訳語の新設」項目を取り上げ、訂増版による造語の有無を含め、その実態を考察してみたい。

二、底本の英語に新設した訳語

底本では訳語がなかった見出し語または英語の例文、解釈文に訂増版で初めて訳語を付けたものは全巻を通して、35項確認できた。以下にそれらを列挙すると同時に、訂増版で新設された訳語と底本の訳語との接点についても触れておきたい。

1．Absolute, a.　完全，齊全，全。

底本では、同じ見出し内に「complete, 全，齊全」という解釈文があり、訂増版の新設訳語「齊全，全」はこれと一致している。ただし、訳語「完全」は底本と接点を持たない。

2．Accent, n.　聲音。

3．Accessary, a.　從，相連。

4．Accost, v.t.　來近。

5．Acting, ppr.　做。

6．Admirably, adv.　絶奇之貌。

7．Ado, n.　多事，艱難。

8．Aggrandizement, n.　致爲高大。

9．Alloy, n.　會鎔。

底本では、この見出し内に「alloy of the fine and base metals, 高低會鎔」という例文があり、訂増版で新設した訳語がこれと接点を持っている。

10. Antiquarian, a.　好古，博古。

底本では、この見出し内に「One who studies into the history of ancient things, 好古之人，博古之人」という項目があり、訂増版で新設した訳語がこれと接点を持っている。

11. Artillery, n.（底本）artillery men. see Artillerist.

（訂増版）artillery men.　砲手。

この項の見出し語「Artillery」の直前に見出し語「Artillerist」があり、そこに訳語「砲手」が付いている。そのため、底本では「artillery men. see Artillerist」の形を取り、訳語を付けていないと思われる。これに対して、訂増版では「see Artillerist」を削除し、訳語「砲手」を付けた。（画像１を参照されたい）

画像１　（底本）

Artillerist 砲手 p'áu' 'shau. P'áu shau, 砲兵 p'áu' ,ping. P'au ping; a corps of artillerists, —隊砲手 yat, túi' p'áu' 'shau. Yih túi p'áu shau.
Artillery, ordnance or great guns, 大砲 tái' p'áu'. Tá p'áu, 大鉄 tái' ch'ung'. Tá ch'ung; a park of artillery, 大砲一隊 tái' p'áu' yat, túi'. * Tá p'áu yih túi, —隊大砲 yat, túi' tái' p'áu'. Yih túi tá p'áu; a train of artillery, 砲器 p'áu' hí'. P'áu k'i: to practice artillery, 試砲 shí' p'áu'. Shí p'áu, 使砲 'shai p'áu'. Shí p'áu, 操大砲 ,ts'ò tái' p'áu'. Ts'áu tá p'áu, 較砲 káu' p'áu'. Kiáu p'áu; artillery men, see Artillerist.

（訂増版）

Artillerist, n. 砲手. 砲兵; a corps of artillerists, 一隊砲手.
Artillery, n. Ordnance or great guns, 大砲. 大鉄; a park of artillery, 大砲一隊, * 一隊大砲; a train of artillery, 砲器; to practice artillery, 試砲. 使砲. 操大砲. 較砲; artillery men, 砲手.

12. Astonish, v.t.　驚奇，驚動。

底本では、同じ見出し内の例文に「令人驚奇」、「驚動天地」という訳語があり、訂増版で新設した訳語がこれらと接点を持っている。

13. Binomial, a.　a root consisting of two members, connected by the sign plus or minus, as: a＋b or 5-3.　二項式

底本では、見出し語「Binomial」について、数式を挙げて説明しているが、訳語はなかった。訂増版でその説明の英文に訳語「二項式」を付けている（画像2を参照されたい）。

画像2　（底本）

Binomial, a root consisting of two members, connected by the sign plus or minus, as: a + b or 5—3.

（訂増版）

Binomial, a. A root consisting of two members, connected by the sign plus or minus, as: a + b or 5—3, 二項式; binomial line, 合名線; binomial theorem, 合名法.

14. Blind, n.　門簾，百葉窓。

底本では、同じ見出し内の例文に「牛百葉窓」、「開牛百葉窓」という訳語があり、訂増版で新設した訳語「百葉窓」がこれらと接点を持っている。

15. Brigantine, n.　兩枝桅船。

底本では、見出し語「Brigantine」について、「see Brig」があるだけで、訳語が付いていない。また、英語の例文、解釈文もない。訂増版で見出し語に訳語「兩枝桅船」を付けた上、底本にあった「see Brig」も受け継いでいる。なお、底本の「Brig」の項でも見出し語に訳語が付いておらず、英語の解釈文に訳語「兩枝桅船」が付いていた。

16. Britain, n.　暎咭唎國。

底本では「Britain, Great, 大英国」となっていた。

17. Caiman, n.　鱷魚。

底本では、見出し語に対して「see Cayman」があるだけで、訳語が付いていない。また、英語の例文、解釈文もない。訂増版で見出し語に訳語「鱷魚」を付けた上、底本にあった「see Cayman」も受け継いでいる。ただし、底本

の「Cayman」には訳語「鱷，鱷魚」が付いている。

18. Came, pret.（底本）of Come, which see.（訂増版）of *come.* 來了

この項の英文は見出し語についての説明となっている。訂増版で見出し語「came」に対応させて、訳語「來了」を付けている。なお、底本の「Come」の項に「to be present, 來了，嚟了，到了，到咯」という項目がある。

19. Camomile, n. 甘菊。

底本では、見出し語に対して「see Chamomile」があるだけで、訳語が付いていない。また、英語の例文も解釈もない。訂増版で見出し語に訳語「甘菊」を付けた上、底本にあった「see Chamomile」も受け継いでいる。なお、底本の「Chamomile」には訳語が付いておらず、英語の解釈文に「甘菊花」と「野菊花」がある。

20. Castoreum, n. 海狸膠。

底本では、見出し語に対して「see Castor」があるだけで、訳語が付いていない。また、英語の例文も解釈もない。訂増版で見出し語に訳語「海狸膠」を付けた上、底本にあった「see Castor」も受け継いでいる。なお、底本の「Castor」の項でも見出し語には訳語が付いておらず、英語の解釈文に訳語「海狸膠」が付いている。

21. Coal-house, n. 煤炭棧。

底本では、見出し語に対して「see Coal-shed」があるだけで、訳語が付いていない。また、英語の例文も解釈もない。訂増版で見出し語「Coal-house」に訳語「煤炭棧」を付けた上、底本にあった「see Coal-shed」も受け継いでいる。しかし、底本で提示している参照項目「Coal-shed」に付いている訳語は「煤炭棧」ではなく、「煤廠」となっている。

22. Contents, n. *pl.* 目録。

底本では、見出し語に対して「see under Content」があるだけで、訳語が付いていない。訂増版で見出し語に訳語「目録」を付けた上、底本にあった「see under Content」も受け継いでいる。なお、底本と訂増版ともに見出し

語「Content」が三つあるが、いずれにおいても見出し語には訳語が付いていない。ただし、訳語「目録」は英語の例文に付いていた。

23. Cruciate, v.t.　加苦，酷刑，加刑。

底本では、見出し語に対して「see Excruciate」があるだけで、訳語が付いていない。また、英語の例文などもない。訂増版で見出し語に訳語「加苦，酷刑，加刑」を付けた上、底本にあった「see Excruciate」も受け継いでいる。なお、底本の「Excruciate」には訳語が付いておらず、英語の解釈文に「拷打，用慘刑，用酷刑，加苦」が付いている。

24. Diffusive, a.　蔓延，蔓衍，靡漫，張的，廣傳。

この項では、訳語「廣傳」だけが訂増版で新たに付けたもので、それ以外はすべて同じ見出し内の訳語を移動したものである（画像3を参照されたい）。

画像3　（底本）

Diffusive, style, 蔓延 mán¹ in. Mán yen, 蔓衍 mán¹ 'in. Mán yen, 靡漫 'mí mán¹. Wí mán, 張的 ,chéung tik. Cháng tih, 用多言 yung¹ ,to in. Yung to yen.

（訂増版）

Diffusive, *a.* 蔓延，蔓衍，靡漫，張的，廣傳；a diffusive style, 用多言.

25. Fist, n.　拳頭。

26. Hear, v.t.（底本）to hear a bird sing, to receive private communication, 私吓聽，竊聞。（訂増版）to hear a bird sing, 聽鳥鳴。to receive private communication, 私吓聽，竊聞。

底本の訳語「私吓聽，竊聞」は英文「to receive private communication」の部分に対応しおり、「to hear a bird sing」に対応する訳語はない（画像4を参照されたい）。「to hear a bird sing」と「to receive private communication」が一つの文としては意味上の関連性がなく、不自然である。これは本来別個の項目であるはずのものが、「to hear a bird sing」のほうに対応する訳語を付けていないため、一つの文の格好になったのである。訂増版で「to hear a bird sing」に訳語「聽鳥鳴」を付け、「to receive private communication, 私吓聽，竊聞」を単独の項目として立てた。

画像 4　　（底本）　　（訂増版）

hwá, 聞人說 ˌman ˏyan shüt. Wan jin shwoh; to hear a bird sing, to receive private communication, 私吓聽 ˏsz ˋhá ˏt'eng, 竊聞 sit ˏman. Tsieh wan; to affect not to hear, 詐唔聽 chá'

hear, obey what one says, 聽人話, 聞人說; to hear a bird sing, 聽鳥鳴; to receive private communication, 私吓聽, 竊聞; to affect not to hear, 詐唔聽, 佯不聞; whom do you hear?

27. Indignation, n. (底本) he who does not manifest his indignation at other people's slights, is he not a superior man? not the least indignation, 都冇嬲, 都無憤怒, 毫無忿恨, 毫無瞋恨。(訂増版) he who does not manifest his indignation at other people's slights, is he not a superior man? 受辱而不慍不亦君子乎。not the least indignation, 都冇嬲, 都無憤怒, 毫無忿恨, 毫無瞋恨。

この項は上の26番に類するものである。本来は「he who does not manifest his indignation at other people's slights, is he not a superior man?」と「not the least indignation」は別個の項目であるはずだが、前の文に訳語が付いていなかったため、一つの文の格好になったのである。訂増版で「he who does not manifest his indignation at other people's slights, is he not a superior man?」に訳語「受辱而不慍不亦君子乎」を付け、「not the least indignation. 都冇嬲, 都無憤怒, 毫無忿恨, 毫無瞋恨」を単独の項目として立てた。

28. Just, adv. 只, 秖, 僅可, 正正, 就正。

底本では同じ見出し内に「僅可」、「正」などの訳語があった。

29. Malleability, n. 打成片。

30. Malleable, a. 可槌得薄的。

31. Mullus, n. 黄尾鰭。

底本では「Mullus」の中に「surmullet, 飛啼鵲」と「another species of ditto, 洋鑽」の２項目があった。しかし、訂増版でそれらを全部削除し、見出し語「Mullus」に訳語「黄尾鰭」を付けた上、さらに参照項目「See Mugil」を付けている。底本と訂増版の両方に見出し「Mugil」があり、その中に

「Mullet, 黄尾鰭」がある。

32. Payer, n.　支銀者，還銀者。

底本では見出し語「Payment」の訳語として「還銀者，支銀者」がある。

33. (底本) Shoots, (訂増版) Shoot, n.　嫩樹枝，笋。

底本では見出し語が複数形だったのを、訂増版で単数形に改訂している。その上で、訳語「嫩樹枝，笋」を付けた。

34. Silk, n.　the three grades of Canton raw silk. 絲

底本では、英文「the three grades of Canton raw silk」の直後に「as－No. 1, ……」という形で三つの等級に当たるものを取り上げている。それに対して、訂増版では「the three grades of Canton raw silk」の直後に「絲」を付けている。

底本では、見出し語「Silk」に続けて「raw ditto, 絲，糸」という項目がある。

35. (底本) Silkworm, silk-worm oak, quercus mongolica, small-leaved ditto, 小葉柞樹。(訂増版) Silk-worm, n. silk-worm oak, *quercus mongolica*, 柞樹。small-leaved silk-worm oak, 小葉柞樹。

この項は上の26、27番に類するものである。本来は「silk-worm oak, *quercus mongolica*」と「small-leaved silk-worm oak」は別個の項目であるはずだが、前の文に訳語が付いていなかったため、一つの文の格好になったのである。訂増版で「silk-worm oak, *quercus mongolica*」に訳語「柞樹」を付け、「small-leaved silk-worm oak, 小葉柞樹」を単独の項目として立てた。

上に挙げた35項のうち、26、27、35番の3項は、底本の不備を修正したものである。また、訳語が対応している英語の特徴を見ると、11、13、26、27、34、35番の6項を除き、他の29項はいずれも見出し語に訳語を新設している。さらに、35項のうち、以下の19項では訳語の一部または全部が底本の訳語と接点を持っている。

1、9、10、11、12、14、15、17、18、19、20、22、23、24、25、28、31、32、34番

しかし、これら19項では、訳語が他の見出しにあるのもあれば、新設訳語が底本の訳語の構成内容と部分的に接点を持っているものもある。即ち、これら19項目の訳語が底本と一定の接点を持っているものの、そこから訳語を採集したと見るには、不自然な要素がある。したがって、以下においては、底本と接点を持っている項目を含め、35項に新設した訳語全体が訂増版以前の辞書類とどのような接点を持っているかを調べてみることにする。

三、先行辞書との接点

森岡健二氏は訂増版の増補訳語の多くはメドハーストに由来すると指摘している[3]。また、宮田和子氏は訂増版の増補訳語の典拠は下記の4辞書であるとしている[4]。

1844年　S.W.Williams『英華韻府歴階』
1872年　J.Doolittle『英華萃林韻府』第一部・第三部
1875年　鄺其照『字典集成』
明治12年　中村敬宇『英華和譯字典』

さらに、宮田和子氏は訂増版における英語の増補は Webster の英語辞典（1864年）から採集したものが多く、品詞表記は中村敬宇の『英華和譯字典』と Webster の英語辞典（1864年）に依拠し、訂増版の附録は J.Doolittle の『英華萃林韻府』第三部から取っていると指摘している[5]。

しかし、「底本の英語に新設した訳語」に関する先行研究は、まだ確認できない。本稿では、宮田和子氏が指摘している4冊の辞書を含め、その範囲をさらに広げ、訂増版の先行の辞書類から方言を用いた辞書などを除き、下記の辞書類で新設訳語との接点を調べてみることにした。

1822年　R. Morrison『英華字典』

1844年　S.W.Williams『英華韻府歴階』

1847、1848年　W.H.Medhurst『英華字典』

1872年　J.Doolittle『英華萃林韻府』第一、二、三部

1875年　鄺其照『字典集成』

1878年　梁述之『華英字彙』

1879年　點石齋『英華字典』

明治２年　柳澤信大『英華字彙』

明治６、15年　柴田昌吉・子安峻『附音挿図英和字彙』

明治12年　中村敬宇『英華和譯字典』

明治12年　矢田堀鴻『英華學藝詞林』

14年　矢田堀鴻『英華學藝辭書』

17年　矢田堀鴻『英華學術辭書』

明治14年　永峰秀樹『華英字典』

明治14年　井上哲次郎『哲学字彙』

訂増版の新設訳語との接点を確認する際、以下の三つの基準が考えられる。

A：英語と訳語のすべてが完全に一致すること。

B：英語は、形態上訂増版のものと完全に一致すること。訳語は、訂増版の訳語と形態上一致するものが一語でも含まれていること。

C：英語は、形態上訂増版のものと一致するか、同じ形態の英語が含まれていること。また、新設訳語の対応している英語が見出し語の場合、確認範囲をその見出し内の例文、解釈文まで広げること。訳語は、訂増版の訳語と形態上一致するものが一語でも含まれていること。

もし訂増作業が取捨選択をせず、機械的に先行の辞書類から訳語を採集して訂増版に増補したならば、基準「A」で確認するべきであろう。しかし、全体の訂増様相から、訂増版の訂増作業は非常に綿密に行われたことが確認できた。したがって、本稿では基準「A」は採用しないことにした。実際の訂増過程で

おそらく基準Bに近い形で作業が行われたものと思われる。しかし、新設訳語との接点を調べる際、もし基準「B」で確認を行えば、初めから訳語と英語の対応性を絶対視することになり、訂増版の新設訳語がたとえ見出し語に対応しているものであっても、実際は英語の例文、解釈文などから採取した可能性を除外してしまう。このような要素を考慮し、本稿では基準「C」で調べることにした。

以下に基準「C」で確認した新設訳語と接点を持つ項目を辞書別に挙げてみたい。なお、注目すべき項目には下線を付して示す。さらに、訳語が複数ある項目では、新設訳語と一致する訳語には二重下線を付して示す。

（一）R. Morrison『英華字典』（1822年）（2項）

Contents, pl. 目録。

Fist, 拳頭。

この2項は項目全体が訂増版のものと一致している。ただし、後続の辞書にも収録されている。

（二）S.W.Williams『英華韻府歴階』（1844年）（7項）

Accent, 聲音。

Alloy, 會鎔。

<u>Astonish, 驚奇。</u>

Britain, 唎咭唎國。

Came, 來了。

<u>Camomile Flowers, 甘菊。</u>

Contents, 目録。

このうち、「Astonish, 驚奇」には新設訳語「驚動」が欠けており、「Camomile Flowers, 甘菊」では、訂増版にない「Flowers」が付いている。

これら7項にあるすべての訳語が他の辞書にも収録されている。

（三）W.H.Medhurst『英華字典』（1847）（13項）

Accent, the tones of the Chinese language, 聲音。

Admirably, 絶奇之貌。

Ado, 多事。

To Astonish, 驚動, 驚赫, 驚駭, 驚訝。

Blind, of a door, 門簾, 綾, 羅。

Brigantine, a small brig, 兩枝桅船。

Caiman, 鱷魚。

Came, 来了。

Camomile, 甘菊。

Contents, contents of a book, 目録。

To cruciate, 酷刑, 加苦。

Fist, 拳頭。

Just, only, 只, 直秪, 董可, 董够, 廑。

このうち、下線が付いている４項は、英語と訳語が訂増版のものと完全に一致しているものである。その他の９項はすべて部分対応になっている。また、これら13項にのうち、新設訳語と一致する訳語は、すべて他の辞書にも収録されている。

W.H.Medhurst『英華字典』(1848)（０項）

新設訳語と接点を持つものはない。

（四）J.Doolittle『英華萃林韻府』第一部（1872年）（９項）

Accent, 聲音, 圈聲。

Alloy, 會鎔。

Artillery, 大炮, 砲手。

Astonish, 驚奇, 驚動, 驚天動地, 驚動天地。

Britain, 咲咭唎國。

Came, 來了。

Camomile, flowers, 甘菊。

Contents, of a book, 目録。

Fist, 拳, 拳頭。

このうち、下線が付いている３項は、英語と訳語が訂増版のものと完全に一致している。その他の６項はすべて部分対応になっている。また、これら９項のうち、訂増版の新設訳語と一致する訳語は、すべて他の辞書にも収録されている。

J.Doolittle『英華萃林韻府』第二部（1872年）（０項）

新設訳語と接点を持つものはない。

J.Doolittle『英華萃林韻府』第三部（1872年）（２項）

Binomial, 二項式。

Malleability, 打成片。

「Binomial, 二項式」は矢田堀鴻にも同じ項目がある。また、柴田昌吉（明治15）にも類似の項目があった。「Malleability, 打成片」はこの辞書と矢田堀鴻のみに収録されている。

（五）鄺其照『字典集成』1875年（22項）

Absolute, 完全, 齊全, 全。

Accessary, 從, 相連。

Accost, 來近,先對人説。

Acting, 做。

Admirably, 絶奇之貌。

Ado, 多事, 艱難。

Aggrandizement, 致爲高大, 整得大。

Astonish, 驚奇, 驚訝。

Blind, 門簾, 百葉窓。

Brigantine, 兩枝桅船。

Caiman, 鱷魚。

Came, 來了。

Camomile, 甘菊。

Coal-house, 煤炭棧。

Contents, 目録。

Cruciate, to. 加苦，酷刑，加刑。

Diffusive, 漫延，流開的，廣傳。

Fist, 拳頭。

Just, 只，秖，僅可，正正，就正。

Malleable, 可槌得薄的。

Payer, 支銀者，還銀者。

Shoot, 嫩樹枝，笋，秧。

これらのうち、下線が付いている5項は、英語と訳語が新設訳語と完全に一致し、同じ形態では點石齋の『英華字典』と永峰秀樹の『華英字典』以外では確認できないものである。點石齋の『英華字典』と永峰秀樹の『華英字典』はいずれも鄺其照の『字典集成』とその内容が同じである。

鄺其照系の辞書のみが新設訳語と接点を持つ項目。(10項)

Absolute, 完全，齊全，全。

Accessary, 從，相連。

Accost, 來近，先對人説。

Acting, 做。

Aggrandizement, 致爲高大，整得大。

Coal-house, 煤炭棧。

Diffusive, 漫延，流開的，廣傳。

Malleable, 可槌得薄的。

Payer, 支銀者，還銀者。

Shoot, 嫩樹枝，笋，秧。

このうち、波線が付いている訳語は、新設訳語と一致するものである。特に、「Coal-house」については、底本で提示した参照項目に訳語「煤廠」があった

にもかかわらず、訂増版で「煤炭棧」を採用している。即ち、底本より本辞書を優先的に参照したことが窺える。また、訳語「來近」、「致爲高大」、「廣傳」、「嫩樹枝，笋」の採集からは、訂増版が訂増過程で訳語を部分採集した事例として注目すべきである。

（六）梁述之『華英字彙』（1878年）（7項）

Accent，聲音，圈聲。

Ado，多事。

Alloy，會鎔。

Artillery，大炮，砲手。

Astonish，驚奇，驚動。

Came，來了，S. 鉛條。

Camomile Flowers，甘菊。

このうち、「Astonish，驚奇，驚動」は、英語と訳語が新設訳語と完全に一致し、同じ形態では他の辞書で確認できないものである。なお、ここに含まれている新設訳語はすべて他の辞書にも収録されている。

（七）點石齋『英華字典』（1879年）（22項）

新設訳語との接点が、鄺其照（1875年）とすべて同様であるので、項目の列挙は省略する。

（八）柳澤信大『英華字彙』（明治2年）（6項）

Accent，聲音，圈聲。

Alloy，會鎔。

Astonish，驚奇。

Britain，喫咭唎國。

Came，來了。

Camomile Flowers，甘菊。

「Accent，聲音，圈聲」の訳語「圈聲」を除けば、すべて『英華韻府歴階』と一致している。ちなみに、『英華韻府歴階』に収録されている項目のうち、

「Contents, 目録」は柳澤信大に収録されていない。

（九）柴田昌吉・子安峻『附音挿図英和字彙』（明治６年）（１項）

Ado, 騒擾, 混雑, 勤勞, 艱難。

この項では訳語「艱難」が新設訳語と一致しているが、新設訳語「多事」が欠けている。

柴田昌吉・子安峻『附音挿図英和字彙』（明治15年）（３項）

Ado, 騒擾, 混雑, 勤勞, 艱難。

Binomial, 二根, 二項式。

Brigantine, 快船, 二枝桅船。

このうち、訳語「二枝桅船」の「二」と新設訳語の「兩枝桅船」の「兩」は字体が違うが、数詞の表記違いで、意味は同じであるため、接点を持つものと見なした。また、訳語「二項式」は『英華萃林韻府』第三部と矢田堀鴻の辞書にも収録されている。

（十）中村敬宇『英華和譯字典』（明治12年）（０項）

新設訳語35項に限って言えば、ロブシャイドの『英華字典』と比較して、英語と訳語に若干の修訂はあるものの、ほとんどはロブシャイドと一致していおり、新設訳語との接点は確認できない。

ちなみに、新設訳語との関連で言うと、中村敬宇で次のことが確認できた。

(1) 新設訳語の13番は、次のようになっている。

Binomial, n. a root consisting of two members, connected by the sign plus, or minus, as: a＋b or 7-3. 算法之語, 以加減之標表二個之數者。

(2) 新設訳語の26番は、英語の部分が底本のミスであるが、そのまま受け継いでいる。

(3) 新設訳語の27番は、削除されている。

（十一）矢田堀鴻『英華學藝詞林』（明治12年）（２項）

矢田堀鴻『英華學藝辭書』（明治14年）（２項）

矢田堀鴻『英華學術辭書』（明治17年）（２項）

Binomial, 二項式。

Malleability, 打成片。

三つの辞書すべてに、この２項が収録されている。この２項については、『英華萃林韻府』第三部のほうでコメントしているので、そちらを参照されたい。

（十二）永峰秀樹『華英字典』（明治14年）（22項）

新設訳語との接点が、鄺其照（1875年）とすべて同様であるので、項目の列挙は省略する。

（十三）井上哲次郎『哲学字彙』（明治14年）（０項）

新設訳語35項とは接点を持っていない。

上では、訂増版の新設訳語と接点を持っている各辞書の項目を挙げてみたが、それらを項目数の多い順から配列すると、次のようになる。

（22項）1875年　鄺其照『字典集成』
　　1879年　點石齋『英華字典』
　　明治14年　永峰秀樹『華英字典』
（13項）1847年　W.H.Medhurst『英華字典』
（11項）1872年　J.Doolittle『英華萃林韻府』第一、三部
（７項）1844年　S.W.Williams『英華韻府歴階』
　　1878年　梁述之『華英字彙』
（６項）明治２年　柳澤信大『英華字彙』
（３項）明治６、15年　柴田昌吉・子安峻『附音挿図英和字彙』
（２項）1822年　R. Morrison『英華字典』
　　明治12年　矢田堀鴻『英華學藝詞林』
　　14年　矢田堀鴻『英華學藝辭書』
　　17年　矢田堀鴻『英華學術辭書』

（０項）1848年　W.H.Medhurst『英華字典』
1872年　J.Doolittle『英華萃林韻府』第二部
明治12年　中村敬宇『英華和譯字典』
明治14年　井上哲次郎『哲学字彙』

上の考察を通じて、訂増版で訳語を新設した35項目のうち、10、20、26、27、31、34、35番の７項が先行辞書と接点を持っていないことがわかった。しかし、10、20、31、34、35番の訳語は底本と接点を持っている。したがって、26、27番の２項のみが底本と先行辞書類でその接点を確認できない項目となる。この２項はいずれも、底本に不備があり、訂増版でそれを訂正したものである。27番は明らかに『論語』の「学而第一」篇にある「人不知而不慍不亦君子乎」をなぞらえて「受辱而不慍不亦君子乎」にしている。しかし、「人不知」と「受辱」の意味が違うので、これは『論語』に典拠するとは言えない。したがって、訂増版における独自の新設訳語は26、27番の２項のみとなる。

さらに、鄺其照系の辞書だけが、10項にわたって独自に接点を持っていることが確認できた。また、新設訳語「打成片」が確認できるのは、J.Doolittleと矢田堀鴻のみである。しかし、矢田堀鴻のほうでは、２項しか接点を持っていないのに対して、J.Doolittle のほうは11項にのぼる。そして、鄺其照とJ.Doolittle の内容は、新設訳語が先行辞書と接点を持っている28項の訳語全体をカバーしている。したがって、訂増版で訳語を新設する際、主に鄺其照とJ.Doolittle の辞書を参考にしたと言えよう。

四、ま　と　め

本稿では井上哲次郎の『訂増英華字典』における新設訳語の様相を考察した。全巻を通じて、この類のものは35項しかなく、他の類の改訂と比較すれば、非常に少ない部類に属する。そして、35項のうち、２項のみは訂増版による独自

の訳語で、28項は主に鄺其照と J.Doolittle の辞書からその訳語を採取したことが確認できた。その他の５項は底本の訳語を引用または参照したものと思われる。

なお、本稿で取り上げた新設訳語35項がＡ～Ｚの部における分布状況は次の通りである。

訳語新設項目の分布表

A	B	C	D	F	H	I	J	M	P	S	合計
12	4	7	1	1	1	1	1	3	1	3	35

この表から訳語の新設項目の大半が「Ａ、Ｂ、Ｃ」の部に集中していることがわかる。いままでの考察を通じて、訂増内容全体の41％が「Ａ～Ｃ」の部分に集中していることも確認できた。また、後半では訂増の一貫性が欠けてしまう様相もあり、訂増作業が前半の部分では、綿密に行われたが、後半に入るにつれて、若干おろそかになっていたことが窺える。

注

(1) 飛田良文・宮田和子「十九世紀の英華・華英辞典目録－翻訳語の資料として」『国語論究』第６集　明治書院　平成９年７月15日 pp. 502～510を参照。

(2) 本稿では英語と対応する訳語をセットで「項」と称している。一つの項目に訳語が複数付いている場合もあるので、全体の訳語数は項目数より多くなる。

(3) 森岡健二編著『近代語の成立・明治期語彙編』明治書院　昭和44年９月10日 pp. 78～81を参照。この部分は平成３年の改訂版でも同様である。

(4) 宮田和子「井上哲次郎『訂増英華字典』の典拠　－増補訳語を中心に－」『英学史研究』第32号　1999年10月１日

(5) 宮田和子「井上哲次郎『訂増英華字典』の典拠　－動詞の自他、分詞、付録を中心に－」『或問』第１号　2000年10月１日

参考文献

陳力衛　1995「早期的英華字典与日本的洋学」『原学』第一輯

那須雅之　1995「W.Lobscheid 小伝－《英華字典》無序本とは何か－」『文學論叢』第104揖　愛知大学文學會

1997「Lobscheid の《英華字典》について－書誌学的研究(1)－」『文學論叢』第114揖　愛知大学文學會

1998「Lobscheidの《英華字典》について－書誌学的研究(2)－」『文學論叢』第116揖　愛知大学文學會

1998「ロプシャイト略伝」（上、中、下）『しにか』10、11、12号

寒河江實　1998「ロブシャイドの『英華字典』－井上哲次郎の訂正増補本について－」『桜文論叢』第47巻

宮田和子　1999「井上哲次郎『訂増英華字典』の典拠　－増補訳語を中心に－」『英学史研究』第32号

2000「井上哲次郎『訂増英華字典』の典拠　－動詞の自他、分詞、付録を中心に－」『或問』第１号

2001「メドハーストの諸辞典とその影響」『或問』第２号

金敬雄　1999ａ「井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の削減についての考察」『行政社会論集』第11巻　第４号　福島大学行政社会学会

ｂ「井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察（Ⅰ）－符号に関わる訳語の修訂－『行政社会論集』第12巻第２号　福島大学行政社会学会

2000ａ「井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察（Ⅱ）－字順の変更による訳語の修訂－」『行政社会論集』第13巻第１号　福島大学行政社会学会

ｂ「井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察（Ⅲ）－同義語・類義語の入れ替えによる訳語の修訂－」『行政社会論集』第13巻第２号　福島大学行政社会学会

ｃ「井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察（Ⅳ）－訳語の修訂ミス－」『国際文化研究』第７号　東北大学国際文化学会

2001ａ「井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察（Ⅴ）－訳語の訂正－」『行政社会論集』第13巻第４号　福島

大学行政社会学会
2001 b「井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修整についての考察」『或問』第３号　近代東西言語文化接触研究会
豊田實著『日本英学史の研究』岩波書店　昭和44年12月
大阪女子大学付属図書館編集『大阪女子大学蔵　日本英学資料解題』大阪女子大学　1962年３月
森岡健二著『近代語の成立』明治期語彙編　明治書院　1969年９月
森岡健二著『改訂近代語の成立』語彙編　明治書院　平成３年10月
沈国威著『近代日中語彙交流史』笠間書院　1994年３月
永嶋大典著『新版　蘭和・英和辞書発達史』ゆまに書房　1996年12月
荒川清秀著『近代日中学術用語の形成と伝播－地理学用語を中心に－』白帝社　1997年10月
飛田良文・宮田和子「十九世紀の英華・華英辞典目録－翻訳語研究の資料として」『国語研究６近代語の研究』明治書院　1997年７月